

論文内容の要旨

報告番号		氏名	伊集院 信夫
Clinical implications of pachyvessels in polypoidal choroidal vasculopathy (和訳) ポリープ状脈絡膜血管症における脈絡膜拡張血管の臨床的検討			

論文内容の要旨

【目的】今まで加齢黄斑変性 (AMD) とされていた症例の中に、肥厚した脈絡膜や拡張した脈絡膜血管 (pachyvessels) などいわゆるpachychoroidスペクトラムに入る病態が入っていることが指摘されており、AMDの一亜型であるポリープ状脈絡膜血管症 (PCV) とされてきた症例に多くみられるとされている。pachyvesselsが見られる部位では脈絡膜毛細血管板と脈絡膜内層が圧排され、網膜色素上皮の不整がみられるという報告があるが、pachyvesselsとPCVの臨床病態への関わりは明らかではない。そこで、我々は日本人に多いPCVにおいてpachyvesselsの有無と病巣との関係を検討した。

【対象】2012年11月から2018年5月に奈良県立医科大学附属病院眼科を受診し、フルオレセインーインドシアニングリーン蛍光眼底造影 (FA-IA) を施行しPCVと診断された過去に治療歴のない84例 86眼を対象とした。pachyvessels (+) 群とpachyvessels (-) 群に分け、電子カルテより臨床所見をretrospectiveに検討した。

【結果】PCVの55.8%にpachyvesselsを認めた。中心窩脈絡膜厚 (SFCT) は pachyvessels (+) 群で pachyvessels (-) 群に比べ有意に薄いことを認めたが、2群間で網膜下液 (SRF)、網膜色素上皮剥離 (PED)、出血の頻度に有意差は認めなかった。SRFは約70%の症例に認め、SRF症例でも pachyvessels (+) 群で有意にSFCTが薄いことを認めた。PEDは約35%の症例にみられたが、PED症例では2群間でSFCTに有意差はみられなかった。出血は約14%の症例にみられ、出血例では pachyvessels (+) 群で有意にSFCTが薄い結果となった。また、片眼性PCV82例のfellow eyeでは46.3%にpachyvesselsを認めた。fellow eyeのSFCTはpachyvessels (+) 群で有意に薄く、PCV眼でpachyvessels (+) であればfellow eyeもpachyvessels (+)、PCV眼でpachyvessels (-) であればfellow eyeもpachyvessels (-) が有意に多い結果となった。

【結論】pachyvesselsとSFCTがPCVの臨床病態に関与していると考えられた。